

2019年11月4日 石垣部会打ち合わせ

◎局長発言について

部会員の発言を軽視する態度は改めるべきだ。文化庁の指摘は、これまで石垣部会が言ってきたことと全く一致しており、2年間無駄にただけである。

前任者からの引き継ぎも全部はできないし、部下からの報告もバイアスがかかっているので、これまでの議事録を自ら読み直して、経緯をよく知るべきである。

今後は、石垣部会にも情報をしっかり出していく。

◎全体整備検討会議について

石垣部会と天守閣部会間の情報共有が全くない。資料を送るだけでもすべきである。

◎文化庁指摘事項について

文化庁の指摘事項については、次回の部会で文化庁の調査官も入れて、内容などを確認すべき。

石垣の空隙の問題については、すぐに何らかの調査を追加するのではなく、カルテを中心に、これまでの成果を見直すことから始める。

◎調査研究センターについて

センターの学芸員を指導するのは、部会として協力する。自分たちでできる体制を整えるべきである。

服部センター長には、これまでの経緯などが十分説明できていないのではないかと。

カルテの問題でも見られるように、これまで行った調査の成果が十分検討できていない。これではすべての調査成果が疑わしくなってしまう。一度、部会員にチェックをしてもらう場を設ける必要がある。

◎埋蔵文化財部会について

次回の部会の冒頭で、埋蔵文化財部会の案を撤回し、御深井丸は現在の部会に諮ればよい。

工学系の部会員として西形先生を入れるのは、早急にやるべき。

◎石垣調査について

まず、最初にやるべきは、石垣カルテを整えること。文石協のコンサルにでも見てもらって、修正をしていくべきである。しっかりやれば、年度末までに整うのではないか。

御深井丸側の石垣調査が遅れている。

石垣部会だけではなく、全体整備検討会議などでも諮る。

◎木造復元について

はね出しはダメだと最初から言っている。文石協にでも相談して、別の案を考えるべき。

◎市長との対話

市民の方にむけて石垣調査の説明会などを開催し、名古屋市長と石垣部会が協力して事業を進めているということを示すことができれば市民も安心するのではないか。

◎今後の進め方

12月の初旬に、北垣、宮武両委員などの個別指導を受けることを検討。

12月26日午後に調査成果の検討会、服部所長との意見交換、27日石垣部会を開催。